希学園　第396回　公開テスト　小6　国語　2025年5月11日実施　【模範解答】　制限時間50分

1

1 a 混同　b 楽観　c 定義

2 ほめて～はない（完答）

3 A 過　B 正　C 投　D 不

4 X 守りの　Y 気持ち（完答）

5 ほめ方～調べる（完答）

6 （記述題）

7 I イ　II エ　III ア　IV ウ（完答）

8 利己

9 I 適度に　II 困難を（完答）

10 しなやかさ

2

1 a 断言　b 課外　c 開口一番

2 A の　B た　C 問答

3 （記述題）

4 I うち～った（完答）

4 II 不登校

5 （記述題）

6 I オ　II ウ　III イ　IV ア（完答）

7 恥ずかしい

8 ウ

9 「いや

10 二つめ 数日　三つめ 二日（完答）

1

6 自分は努力する人間だという期待を裏切りたくないといった思い

（同意可）

2

3 母の好物だったせんべいを自分で焼き、うちから出ていった母に送って食べてもらおうとしているから。

（同意可）

5 初めてなのにうまくせんべいを焼く潤にライバル心がわいてきたから。

（同意可）

［配点］

1 1 13　2 12

1 6　2 3 5

その他

各2点×13＝26点

各6点×3＝18点

各4点×14＝56点

希学園　第396回　公開テスト　小6　国語　2025年5月11日実施　【解説】

1 [1]

a「混同」は本来区別しなくてはならないものを同一のものとして扱うこと。b「楽観」は物事のなりゆきをすべて良い方に考えて心配しないこと。c「定義」はある概念の内容やある語の意味を他と区別できるように明確に限定すること。

2 「自己肯定感が高まるのだろうか」という問いかけに対する答えなので、「自己肯定感は高まらない」のどちらかになるだろうと考えながら読み進めていく。この文章は「ほめても自己肯定感が高まるわけではない」理由が四つ並列の形で述べられている。

3 A「一過性」は現象が短い間に起こり、また消える性質のこと。B「正反対」はまったく反対なこと。C「投げかける」はここでは問題などを提起すること。D「不安定」は安定しないこと、落ち着かないさま。

4 「ほめても自己肯定感が高まるわけではない」理由の「第一」を聞かれているので、「第二に…」の直前の行までからさがす。また、「X」に入り、「Y」がマイナスの内容になることもおさえる必要がある。「X」・「Y」を含む一文の次の文で「ほめられる…好循環をもたらすと考える人が多いようだが、ほめ方によっては逆効果に…」とあるので、その「逆効果」のほめ方に注目しよう。ここでは「頭の良さ＝能力」をほめた場合がそれにあたる。

5 ――線②の「これ」は直前の文を指していること、◎の文から［　］にはこの実験の目的がはいることをおさえたうえで考える。条件①と条件③の子どもたちが異なる理由でほめられたことがこの実験の目的を考えても重要だ、ということである。

6 「直前の段落を参考にして」とあるので直前の段落を見ると、③を含む段落と構成が同じであることがわかる。よって、③には前の段落の「自分の能力の高さに対する期待を裏切りたくないといった思い」にあたる内容を入れればよい。「能力をほめられる→自分の能力の高さに対する期待を裏切りたくない」となっていることから、「努力をほめられる→自分の努力（頑張り）に対する期待を裏切りたくない」と考えられる。

7 アの「でも」に注目すると、アはイよりもあとになるとわかる。また、ウは「自信がなくなる」という内容で冒頭に「これ」という指示語があること、エは「自信になる」という内容で「それも」という並列の助詞が含まれていることから、ウは「自信をなくす」という内容であるアのあとに、エは「自信になる」という内容であるイのあとになる。

8 「ほめても自己肯定感が高まるわけではない」理由の「第三」を聞かれているので、「第四に…」の直前の行までからさがす。「『ほめれば言うことを聞くはずだ』とか『ほめればこちらの印象が良くなるはずだ』『ほめればこちらに好意をもつはずだ』」というほめる側の考えが再度「印象を良くしたいとか嫌われたくないといった…」と述べられている部分に注目しよう。

9 この問いでは、「常にポジティブな気分にさせられている→［　］→ネガティブな状況に耐える力、いわゆるレジリエンスが鍛えられない」の［　］の部分を答えることが求められている。◎の文の［　Ⅰ　］は「傷つきにくい心はどのようにつくられるか」が述べられている本文最終段落から考える。［　Ⅱ　］は直前の「そういった」が［　Ⅰ　］の「適度に傷つく」を指していることをふまえたうえで考える。

10 一つめの⑥の直前に「いわば」とあるので、ここには「弾力性」や「柔軟性」を言いかえたことばがはいるとわかる。「しなやかさ」は考え方や対応の仕方の柔軟さという意味である。

1 [2]

a「断言」はきっぱりと言い切ること。b「課外」は学校で、正規に定められた学科や課程以外のもの。c「開口一番」は話を始めるとすぐに、という意味。

2 A「のみ込む」はここでは理解すること。B「たりとも」は、…であってもという意味。C「問答無用」はもはや議論する必要のないこと。

3 潤がせんべいを焼きに来ている理由、つまり目的を聞かれているので、安易に直前の表現を使って「じいさんが許可を出したから」と答えてはいけない。――線①の直後の潤が焼いている場面には書かれていないので、しばらく読み進めていくと「母さんに、送りたいから」「夏休みに母さんがうちから出ていったんだ。母さんはよく薄胡麻せんべいを食べてた。耳が残ってるやつが好きだった。買ってくるのはいつだって小田せんべいだったよ」という潤の発言がある。ここから「出ていった母にせんべいを送りたい」とわかる。また、せんべいを買って送ろうとしているのではなく、自分で焼いていることも答えに盛り込みたい。

4 ――線②を含む「これ、頭が空っぽになるからいいね…いろいろ考えなくてすむよ」という潤の発言から、「いろいろ」とは潤にとってマイナスの事情を指しているとわかる。［　Ⅰ　］は問3とも関連している「（母さんが）うちから出ていった」である。［　Ⅱ　］は潤本人の事情であるが、潤が学校に来た場面でクラスメイト達が意外そうな顔をしていることや、中村の「一学期は普通に登校してきてたんだから」という発言などから、学校に通えていない状況だと読み取れる。それを最後の場面で「不登校」と表現している。

5 はじめのうちは潤がせんべいを焼く様子を「見守ることに徹」していた弘毅が――線③でせんべいを焼き始めた、という変化に注目しよう。きっかけとなったのは「初めてでそれだけ焼けるってのは、潤は要領をつかむのが早ぇな」とよっしーが感心し、弘毅がちょっとムッとした場面である。言動の理由を聞かれているので、心情も答えに盛り込む必要があるが、「ムッとした」ではせんべいを焼こうとした心情にふさわしくないので、「負けたくないと思った」などといったふさわしいものにすることも忘れないようにしよう。

6 【　Ⅰ　】にはマイナスの表現、その他にはプラスの表現がはいる。【　Ⅰ　】のマイナスの心境から「送ってもらったら、（お母さん）た潤の様子や心境が反映されていると考えられる。【　Ⅱ　】は【　Ⅰ　】のマイナスの心境がはいると考えられる。【　Ⅲ　】は直前の「ごちゃごちゃしていた気持ちそら喜ぶべ」と後押ししてもらって変化したプラスの心境がはいると考えられる。【　Ⅳ　】は直前の「よかったな」「なにがよかったのか分かんねえけど、よかったのならがすーっと引き」という表現から考える。

7 「…」という表現から、柔らかい和やかな空気になっていることから考えられる。

8 「それが火傷と同じように⑤感じた」とあるので「火傷」について書かれているところに注目すると、「当時は…火傷をした。その痕は、手の甲にほんの少し残っている…もっとくっきりと残っていたら自慢できたのに。このままどんどん薄くなって、最後には消えるんじゃないかと予測すると…」とあるので、この火傷同様「せんべいを焼いていた証」のようにとらえているとわかる。

9 そもそも通読時につながりの悪いところにアンテナを立てておく必要がある。◎の一文は「小田君がやって来た」ということではなく、「母さんから電話が来た」という嬉しい報告である。

10 場面の変わり目は通読するときに意識しておくべきである。日の変わり目がわかりやすく書かれていた。

以　上